

日刊金属

発行所 有限会社メタル情報センター

本社 〒530-0043
大阪市北区天満2-12-3
南末広ビル3階E号
電話(06)6353-7831(代表)
FAX(06)6353-7832

東京支社 〒104-0033
東京都中央区新川1-31-8
ニッケハイム茅場町
電話(03)3523-0442(代表)
FAX(03)3523-0443

購読料 6ヶ月 36,750円 前金
3ヶ月 18,900円

銅

1月の銅スクラップレポート及び2月の見通し LMEセツル7700-8200ドル、建値71万-76万円を予想 橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

■概況:前半は10月の米貿易収支が422.4億ドルに拡大したことや11月の米ISM(製造業景況感指数)が49.5と3年4カ月ぶりの低水準に落ち込むなどマイナス材料があったが、11月の米雇用統計で失業率が7.7%と改善した事やFOMCでツイストオペのかわりに米国債を一定金額買い取るとの発表を好感し8047ドル(セツル)と約100ドル上昇しての前半締めとなった。

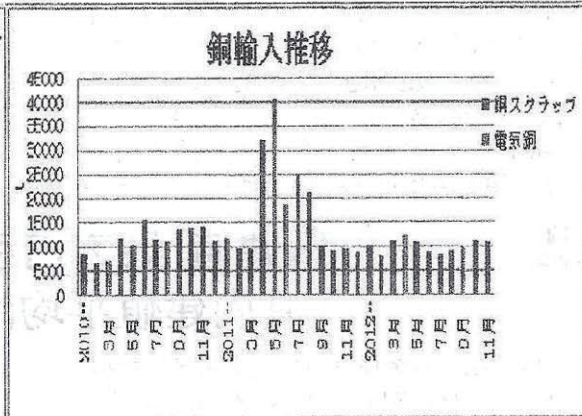
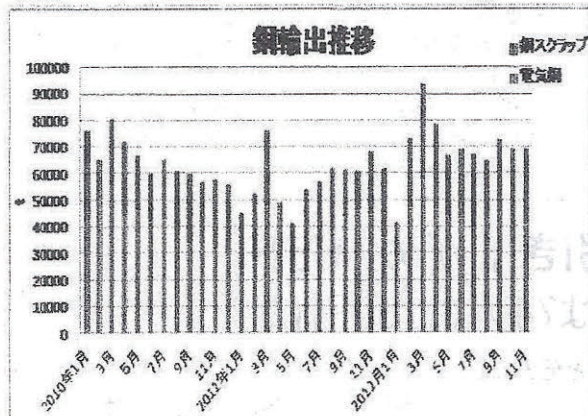
後半は12月のNY連銀景況感指数が-8.1%と予測の-1%を大きく下回ったことや11月の米新設住宅・中古住宅共に着工数がさなかった事など悪材料もあったが12月の米PMI指数が54.2と8カ月ぶりの高水準だった事。米財政の崖問題が先送り法案(年収3900万以下への減税延長。自動車出削減の2カ月先送り)の可決によって一旦遠のいた事を好感し一時8170ドルまで上

昇するもFOMC議事録で債権買取を含む金融緩和について年内終了との意見が台頭してきた事を嫌気し上げ幅は抑えられ1月8日現在、前半締めから125ドル上昇の7995ドル 建値76万円のスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比-8.4%の76万7530台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前年比-3.4%の21万4429台。国土交通省統

輸出	9月	10月	11月
電気銅	4万5075t	3万3810t	4万0921t
前年比	+2.9%	-28.2%	-8.1%
スクラップ	2万7832t	3万5872t	2万8424t
前年比	+55.8%	+142.6%	+19%

輸入	9月	10月	11月
電気銅	2356t	3096t	3344t
前年比	-30.7%	-8.9%	-28.1%
スクラップ	7443t	3140t	7321t
前年比	+20.1%	+45.5%	+56.9%



計によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)−7.2%(前年比+10.3%)の8万145戸であった。

また財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が−8.1% 4万921t、スクラップが+19%の2万8424t。輸入は電気銅が前年比−28.1%の3344t、スクラップ+56.9%の7321t。

更に前月の国内指標では、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比−5.2%の6万2560t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると銅電線出荷は前年比+3.1%の6万2300tであった。

■見通し:12月は欧州懸念は先月に一旦去ったものの、米財政の崖問題(減税の終了と自動歳出削減が同時に起こり米個人消費・経済に悪影響を与える)が台頭した。一旦は法案可決によって2カ月先送りされたものの今後の動向に注視。

自動車生産は前年比−8.4%と1桁悪化に留まったものの、販売の方も−3.4%とまだまだ減少基調。住宅関連は先月に続き2カ月連続2ケタ増加 前年比+10.3% (前月比(季節調整済み)−7.2%)の8万145戸と復興需要も伴って大幅増。伸銅品生産量は前年比−5.2%の6万2560tと再びマイナス。自動車生産の悪化が原因との見解。銅電線出荷量は、前年比+3.1%の62300tと3カ月ぶりプラス。住宅の好調が寄与したとの見解。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比−8.1%の4万921tと大幅減。銅スクラップは+19%の2万8424tとこちらは大幅増加した。輸入は電気銅が−28.1%の3344t。スクラップは+56.9%の7321t。スクラップ輸入の大幅増に関して好調な電気銅生産が寄与したとの見解。銅需要に関しては年末からの価格の急騰の下落リスクや年初、旧正月前などの季節要因から生産量減少による需要減や財政の崖問題が未解決である事の先行き不透明感からメーカー買い気薄。

銅価格に関しては、主なテーマである「米財政の崖問題」が2カ月先送りされたことで1月

中に新たな展開は考えにくく、さりとて新規プラス材料は望めず、上値は直近高値付近の8200ドルが限界。下値は現在8000ドル近辺を推移してる事から欧州債務問題の再燃、中国経済指標の悪化などゴタゴタが加われば下落が考えられ直近安値7700ドルも視野にはいるのでは。銅建値に関しては71−76万円程度と予測している。

日本鉱業協会、賀詞交歓会を開催

日本鉱業協会は、1月8日に賀詞交歓会を開催し、山田政雄会長は次のように挨拶した。

昨年の状況を踏まえて、当協会が今年取り組むべき課題について、いくつか挙げさせていたいただきます。

第一点目は「資源の安定確保」です。我が国企業による海外の大型鉱山プロジェクトも始動しますが、引き続き我が国の資源の安定確保に向け、国のご支援を仰ぐと共に各種助成制度や鉱業税制の有効活用を図り、官民一体となった取り組みを続けて参りたいと存じます。

二点目は「資源の有効利用とリサイクルによる循環型社会の構築とレアメタル等有価金属の回収」です。国内には各種使用済み製品や部材等に含まれるベースメタル、貴金属及びレアメタルが多量に存在しており、当業界は長年にわたって培ってきた固有の製錬技術や設備を活かすことで、こうした「都市鉱山」とも称される金属資源のリサイクルに大きな役割を果たしております。国や地方自治体とも連携して安定的に量を確保できるような集荷システムの構築やリサイクル技術の向上に取り組んで参りたいと存じます。

三点目は「人材育成」です。国際資源大学校において、国内人材育成と国際協力育成のための研修を行っておりますが、この一層の充実と継続のためには堅実な財政基盤が不可欠であり、そうした仕組みづくりも進めて参ります。一方で、資源開発を目指す技術者を増やすことも重要であり、大学生、大学院生を対象とする人材育成の強化について国のご支援も是非お願いしたいと存じます。

今後とも当協会が直面する諸問題の解決に尽力する所存でございますので、何卒よろしくご支援をお願い申し上げます。

JX日鉱
日石金属

銅建値は2万円引き下げの74万円 月内建値平均は74万3,100円に

JX日鉱日石金属は9日、電気銅建値を2万円引き下げの74万円とし同日から実施する

と発表した。

これは、海外銅相場が下落したことで為替